

エコアクション21

環境経営レポート 2020

自然に優しい環境づくりを思考する



作成年月日 : 令和 3 年 8 月 作成

対象期間 : 令和 2 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 3 1 日

株式会社 佐藤興産

目 次

1. 環境経営方針	1
2. 事業の概要	2
会社概要	
事業の規模	
許可沿革	
3. 実施体制	3
4. 環境経営目標	4
5. 取組実績	5-6
実績グラフ	
6. 環境経営目標（新中長期目標）	7
7. 環境活動の内容と取組結果の評価	8
8. 環境関連法規への違反、訴訟等	9
9. 環境コミュニケーション	10-11
10. 代表者による全体の評価と見直し	12
11. 事業活動の内容	13-15
カーボン・オフセットの導入	16-17
主要設備	18
処理実績	19
リサイクル提案フローチャート	20
工場の配置と地図	21

1. 環境経営方針

環境経営方針

株式会社佐藤興産が行う全ての事業活動を通じ、未来に向け、自然に優しい環境づくりを思い考え地域社会に貢献します。

環境理念

建設事業、産業廃棄物収集運搬・処分業で発生する環境への影響を低減し、社業が地域社会に必要とされ、地域と共に活動を継続していくために以下の指針を定め、持続可能な循環型社会の構築に貢献します。

環境行動指針

1. 全事業を通じて発生する廃棄物の分別・再利用・再資源化、CO₂削減の推進、受託した産業廃棄物の再資源化、全サイトで「安全できれいな職場だね」と言われる仕事に努めることにより環境保全に寄与します。
2. 社内の環境に配慮した省エネルギー活動を通じ、電力・化石燃料(ガス、軽油・ガソリン)の使用量を削減するとともに、水資源消費の節約を行い環境負荷の低減を目指します。
3. 環境経営方針、環境経営目標を定め、環境マネジメントシステムを維持・継続的に改善し環境経営の推進に努めます。
4. 環境に関する法律・法令、及び当社が同意した受け入れ事項を遵守しコンプライアンスに努めます。
5. 全社員に対する環境教育を実施し、環境に対する意識の向上を図ります。また環境経営方針・環境活動は必要に応じて社内外に開示します。

制定 平成 20 年 3月 28日 (初版)
改訂 令和 2 年12月 1日 (第7版)

株式会社 佐藤興産

代表取締役 佐藤亮厚

2. 事業の概要

会社概要	
会社名	株式会社 佐藤興産
代表者名	代表取締役 佐藤亮厚
創業	昭和50年5月 設立 昭和54年5月
資本金	50,000千円
本社	〒 020-0401 岩手県盛岡市手代森19-95-2
IMリサイクルセンター	〒 020-0401 岩手県盛岡市手代森18-2-2
ECOセンター	〒 020-0403 岩手県盛岡市乙部5-320-1
最終処分場	〒 020-0401 岩手県盛岡市大ヶ生8地割字赤坂1-1
系列会社	有限会社 佐藤運輸 (認証登録外) 有限会社 エコ・プランニング岩手 (認証登録外)
環境管理責任者 連絡先	谷藤眞一 TEL 019-696-2362 FAX019-696-2384 E-mail : info@sato-im.com
事業内容	建設業、産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物中間処理業 産業廃棄物最終処分業 特別管理廃棄物収集運搬業 一般廃棄物処理業

事業規模

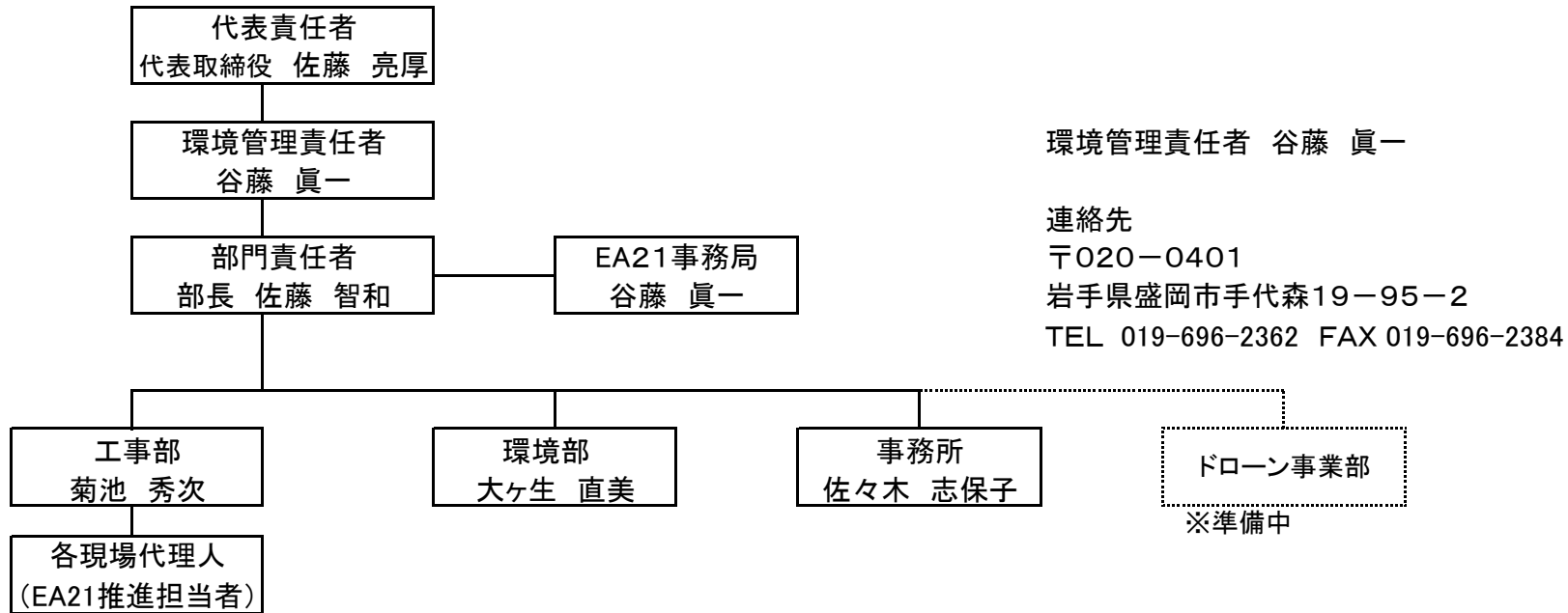
活動規模	単位	平成30年	令和元年	令和2年
売上高	百万円	760	1184	945
従業員	人	35	35	35
施設面積	m ²	11,243	11,243	11,243
積替保管面積	m ²	213.64	213.64	213.64
保管上限	m ³	328	328	328
最終処分場容積	m ³	26,775	26,775	26,775
最終処分場残存容積	m ³	725.83	725.83	725.83

業の許可

業	内 容	更新/有効期限	許可番号
産業廃棄物中間処理業	破碎: 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず(本量のみ)、ゴムくず、金属くず、ガラス陶磁器くず、がれき類 破碎分別: ガラス陶磁器くず(廃石膏ボードのみ)	R1.6.14/R6.6.13	11041019741 (盛岡市)
産業廃棄物最終処分業	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラス陶磁器くず、がれき類		
産業廃棄物収集運搬業	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス陶磁器くず、がれき類、ばいじん (※秋田県は廃酸、廃アルカリ、ばいじんを除く)	R1.6.14/R6.6.13 (盛岡市) R1.6.14/R6.6.13 (岩手県) R3.8.4/R8.8.3 (秋田県)	11041019741 (盛岡市) 00301019741 (岩手県) 00506019741 (秋田県)
積替え・保管を含むもの	廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず、ガラス陶磁器くず(廃石膏ボードのみ)	R1.6.14/R6.6.13	11041019741 (盛岡市)
特別管理廃棄物収集運搬業	廃油、感染性産業廃棄物、廃石綿等	H29.7.26/H34.7.25	00351019741 (岩手県)
建設業	解体業、特定建設業	R1.6.13/R6.6.12	知事(特-1) 第9172号
一般廃棄物処理業	一般廃棄物収集及び運搬 (盛岡市(旧都南村)・紫波町・矢巾町)	R3.4.1/R5.3.31	指令 第8号

認証登録範囲 : 全サイト、全事業活動、全組織

3. エコアクション21の実施体制



役割	担当者	責任・権限
代表責任者	代表取締役 佐藤 亮厚	①環境管理責任者を任命する。 ②環境管理責任者からの報告を受け全体の見直しを行う。取り組みに対する資源を用意する。 ③環境方針を制定し・社員に周知する。 ④取り組みに対する資源を用意する。 ⑤経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。
環境管理責任者	谷藤 眞一	①代表者に代わってシステムを構築し、運用する。②代表者に結果を報告する。
EA21事務局	谷藤 眞一	①環境管理責任者を補佐し、必要な文書・記録の作成等EA21に関する実務全般を行う。
部門統括責任者	部長 佐藤 智和	部門内において、 ①省資源、省エネ、節水を奨励・実施する。 ②必要な教育訓練を計画し実施する。
部門別責任者	大ヶ生 直美 菊池 秀次 佐々木 志保子	③EA21目標達成の取り組みを推進し、チェックし環境管理責任者の了承の下必要な訂正処置・改善 ④公害防止、緊急事態への予防処置を行う。
	現場代理人	①各現場において、工事部責任者と同様の役割を行う。 ②建設現場における、新規入場者等に対する環境配慮事項の伝達
コミュニケーション窓口 事務局	谷藤 眞一	①地域住民、関連機関からの苦情等の窓口業務を行う。②苦情への対応・予防処置策定を行い、代表者の承認を受け関係者に実施を指示し、経過・結果の報告を受け改善・定着を図る。
社員		①部門責任者の下、省資源、省エネ、節水に努める。②EA21取組に関する教育訓練を受ける。 ③自主的に会社の推奨する地域の自然保護活動に参加する。④環境問題へ自覚を持ってもらう。

4. 環境経営目標

平成29年を基準として、令和2年度までに下記項目の目標達成を目指します。

環境経営目標	単位	平成19年度 実績値※2,3	基準値※1	中長期目標		
				平成30年度	令和元年度	令和2年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ ／百万円	1,192	1,497	1,490 (0.5%の削減)	1,490 (0.5%の削減)	1,482 (1.0%の削減)
	kg-CO ₂	627,058	1,189,422	1,188,106	1,188,106	1,182,135
電力使用量の削減	Kwh ／百万円	129.8	201.1	200.1 (0.5%の削減)	200.1 (0.5%の削減)	199.1 (1.0%の削減)
	Kwh	68,266	159,770	158,971	158,971	15,817
軽油使用量の削減	L ／百万円	412.5	520.9	518.3 (0.5%の削減)	518.3 (0.5%の削減)	515.7 (1.0%の削減)
	L	216,969	413,918	411,848	411,848	408,789
ガソリン使用量の削減	L ／百万円	14.35	10.80	10.75 (0.5%の削減)	10.75 (0.5%の削減)	10.69 (1.0%の削減)
	L	7,548	8,580	8,537	8,537	8,494
水資源使用量の削減	m ³	277	559	557 (2m ³ の削減)	数値管理のみとする	
産業廃棄物のリサイクル率の維持(解体工事含む)	%	96.1(97.7)	99.5 (97.2)	99.5 (97.2)	リサイクル率99%前後の維持	
建設現場における騒音・振動・粉塵・排ガス等の抑制「きれいな現場だね」と言われる仕事	環境に配慮した重機・車両の使用や作業の実施、現場及び現場周辺の清掃の実施等により地域環境に配慮した解体工事を実施する。					
地域への貢献活動の実施	回	2	3	3	3	3

※1 基準値は、新処理施設「ECOセンター」が本格的に稼働した平成29年度の実績値。

※2 H19年実績値の電力使用量は、破砕機導入に伴う20年度実績値

※3 H19年実績値の水資源使用量は、19年度のデータがない為20年度実績値

※4 平成29年度の東北電力の二酸化炭素排出係数0.521(実排出係数)を使用し、中期活動期間数値に固定する。

5. 取組実績

環境経営目標	単位	基準値 (H29年度)	目標値	実績値 (R2年度)	達成率 (%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ ／百万円	1,497	1,482 (1.0%の削減)	894	165.6	○
	kg-CO ₂	1,189,422	1,182,135	845,506 ^(注2)		
電力使用量の削減	Kwh ／百万円	201.1	199.1 (1.0%の削減)	147.6	134.9	○
	Kwh	159,770	15,817	139,579		
軽油使用量の削減	L ／百万円	520.9	515.7 (1.0%の削減)	310.4	166.1	○
	L	413,918	408,789	293,480		
ガソリン使用量の削減	L ／百万円	10.80	10.69 (1.0%の削減)	9.63	111.0	○
	L	8,580	8,494	9,100		
水資源使用量の削減	m ³	559	数値管理のみ	365.5	—	—
産業廃棄物のリサイクル率の維持(解体工事含む)	%	99.5 (97.2)	99前後	99.2 (97.0)	—	△
建設現場における騒音・振動・粉塵・排ガス等の抑制	環境に配慮した重機・車両の使用や作業の実施、現場・現場周辺の清掃の実施等により地域環境に配慮した解体工事を実施する。					○
地域への貢献活動の実施	回	3	3	3	100.0	○

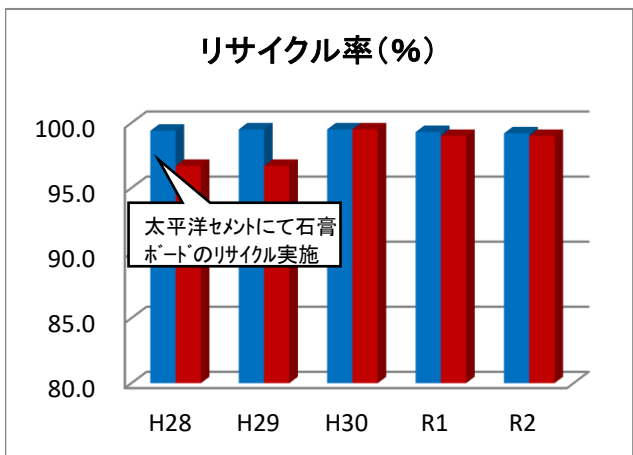
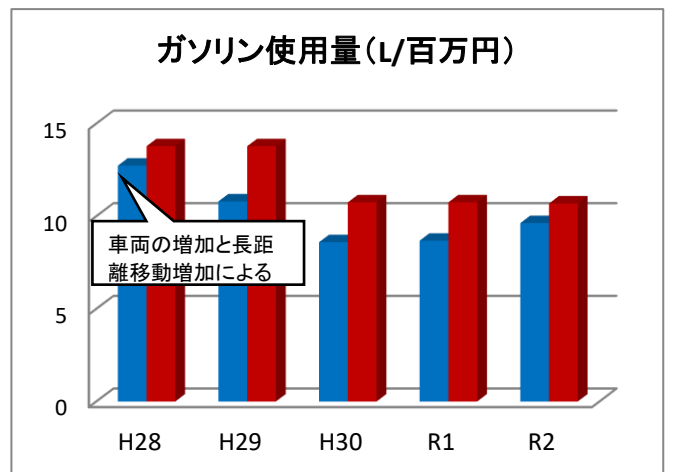
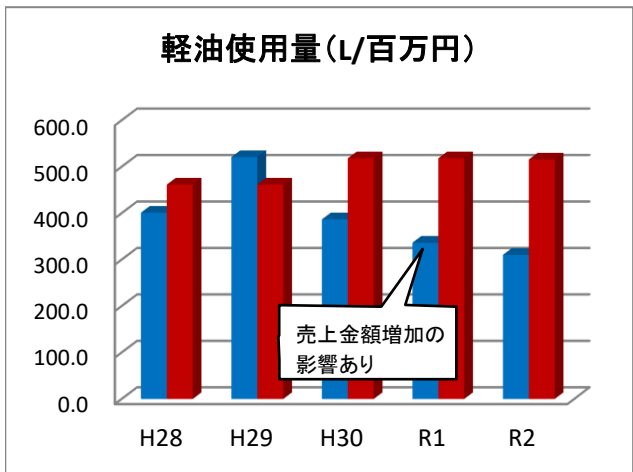
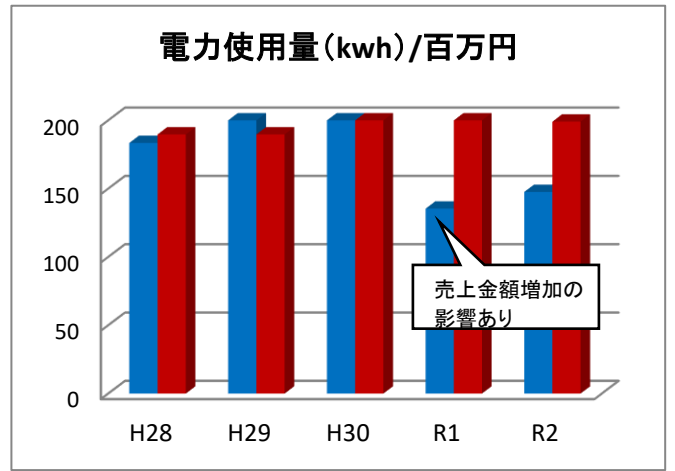
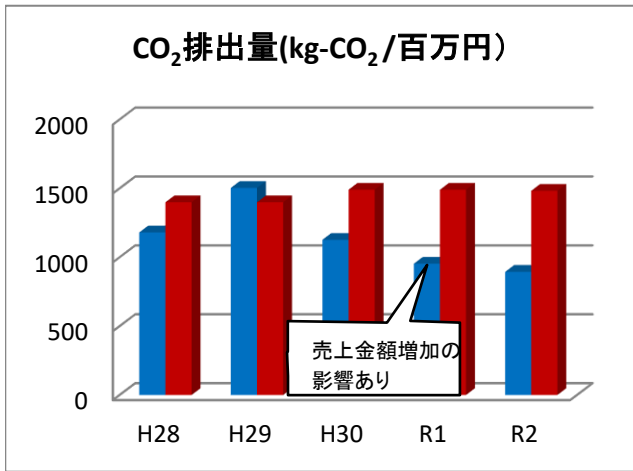
(注)購入電力の排出係数については、平成29年度の東北電力の二酸化炭素排出係数の0.521

(実排出係数)を使用し、中期活動期間中はこの数値に固定する。

評価基準：○ 達成率100%以上、△ 90%以上、× 90%未満

(注2)二酸化炭素排出量削減の実績値は、カーボン・オフセット24,000kg／年を差し引いた数値。

環境負荷の取組み実績(H28～R2)



■ 実績値
■ 目標値

※H30年度目標値は、中長期計画により見直し

6. 環境経営目標(新中長期目標)

平成29年を基準として、令和5年度までに下記項目の目標達成を目指します。

環境経営目標	単位	基準値※1	中長期目標		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /百万円	1,497	1,482 (1.0%の削減)	1,482 (1.0%の削減)	1,482 (1.0%の削減)
	kg-CO ₂	1,189,422	1,182,135	1,182,135	1,182,135
電力使用量の削減	Kwh /百万円	201.1	199.1 (1.0%の削減)	199.1 (1.0%の削減)	199.1 (1.0%の削減)
	Kwh	159,770	15,817	15,817	15,817
軽油使用量の削減	L /百万円	520.9	515.7 (1.0%の削減)	515.7 (1.0%の削減)	515.7 (1.0%の削減)
	L	413,918	408,789	408,789	408,789
ガソリン使用量の削減	L /百万円	10.80	10.69 (1.0%の削減)	10.69 (1.0%の削減)	10.69 (1.0%の削減)
	L	8,580	8,494	8,494	8,494
水資源使用量の削減	m ³	559	数値管理のみとする		
産業廃棄物のリサイクル率の向上(解体工事含む)	%	99.5 (97.2)	リサイクル率90%前後の維持		
「きれいな職場だね」と言われる仕事	工場内、現場及び現場周辺の清掃の実施等により社内外の環境保全を実施する。				
地域への貢献活動の実施	回	3	3	3	3

※1 基準値は、新処理施設「ECOセンター」が本格的に稼働した平成29年度の実績値

※2 令和元年度の東北電力の二酸化炭素排出係数0.528(調整後排出係数)を使用し、中長期活動其中はこの数値に固定する。

7. 環境活動の内容と取組結果の評価

環境活動の内容	取組結果と評価
1) 二酸化炭素排出量の削減	評価・・・○
① 不使用設備の電源はNFBを切る又はコンセントを抜く ② 事務所内の照明は必要なエリアのみ、退出時の消灯 ③ 事務所内の温度管理は夏季28℃・冬季22℃に設定する ④ 照明設備のLEDへの切替え ⑤ 空調設備の保守点検・自主点検をする ⑥ エコドライブ・アイドリングストップの実施 ⑦ 車両・重機内の温度を適切にする ⑧ 車両設備点検を定期的にする ⑨ カーボンオフセットの導入(2t/月)	今年度も工事部では11月から大規模解体物件があり、重機や車両の使用も多く、産廃搬出量も多い一年となりました。また、環境部でも解体現場を中心に産廃の搬入が多く、それに伴い処理施設の稼働時間も多くなりましたが、電力や軽油を多く消費する処理施設や重機、車両が無駄なエネルギーを消費しない様に、日常点検や整備を行い、大きなトラブルの発生を未然に防止し、また、効率的な稼働を心掛けることにより、一年を通して概ね目標を達成することが出来ました。累計で全ての項目で目標を達成することが出来ました(二酸化炭素排出量 達成率165.6%, 電気使用量 達成率134.9%, 軽油使用量 達成率166.1%, ガソリン使用量 達成率111%)。 今年度も継続して2t/月のカーボン・オフセットを1年間更新して導入しました。 その他、既定の取組みを確実に実施し、環境に配慮した活動を行うことができました。
2) 排水量の削減	評価・・・(数値管理のみ)
① 節水表示をし水を出しっぱなし、無駄使いしない ② メーターを取り付け水使用量のチェックをする ③ 男子トイレの感应式節水装置の取付	数値管理のみとなったが、一年を通して各部門とも使用量を抑えることができました。今後も漏水チェックや節水表示を行い、引き続き節水に努めていきます。
3) 産業廃棄物のリサイクル率の維持(解体工事含む)	評価・・・○(△)
① 分別を徹底しリサイクルの向上・維持に努める ② プラントでの手選別や施設の組合せによる分別・リサイクルを実施 ③ 排出事業者・運搬業者に分別・リサイクル方法を説明し、確実に分別を実行してもらう ④ リサイクル施設を優先的に利用し、新たなルートも検討する ⑤ 分別しやすい工事の実施及び現場での分別作業の徹底 リサイクル処理施設の優先的な利用	リサイクル率99%前後の維持という目標に対して、取組み事項は概ね実行され、環境部は99.2%と目標を達成することができましたが、工事部は97%と目標を若干下回っておりました。これは、自社解体物件で石綿含有建材が使用されていたことによるもので、近県にもリサイクル可能な施設が無いため改善が難しいが、それ以外の部分でリサイクル率を高められる様に継続して取り組んで行くこととします。今期も自社解体現場を含めて、産廃の搬入量が多くなりましたが、受入を止めることなく適切に処理業務を行うことが出来ました。日々新たな廃棄物が発生しているため、社内での対応はもちろん、外部の処理施設とも連携をしてリサイクルを推進していきます。
4) 地域への貢献活動	評価・・・○
地域の清掃活動への参加など	周辺道路の清掃活動、除雪作業、障害者支援事業所からの受入の他、近隣中学校1学年の社会科見学等の受入を行いました。

【評価基準】 ○:達成率 100%以上、△:達成率 90%以上、×:達成率 90%未満

次年度への取組

環境方針	継続して実施していく。
目標値	新たな中長期目標を設定したが、取組みが安定期に入ったので目標値は継続した数値とする。建設現場に限定していた「きれいな現場だね」と言われる仕事を全サイトで「きれいな職場だね」と言われる仕事となるように展開していく。
取組方法	今後は産廃の排出量は徐々に減少し、排出事業者には選ばれる側になっていくので、また利用しやすくなるような対応を実行して行く。
資源の投入	今後ECOセンターに処理施設を集約していく計画となっており、まずは木くず、廃プラスチック類の処理をECOセンターで完結できるように処理施設、保管施設等の拡充を順次行っていく。
運用体制	継続して実施していく。

8. 環境関連法規への違反、訴訟等

環境関連法規への違反、訴訟等について
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境関連法	法規制内容	規制対象	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	適正処理	収集運搬・処分	○
	廃棄物の保管	保管量・日数	○
	マニフェストの管理	収集運搬・処分	○
道路交通法	車両点検	収集運搬車両	○
	運転管理者	収集運搬車両	○
	過積載・速度違反	収集運搬車両	○
消防法	火災の予防	全職場	○
労働安全衛生法	労働災害の防止	全職場	○
	安全衛生管理	健康診断	○
環境基本法 ／公害防止諸法	大気汚染・水質汚濁・土 壌汚染・悪臭・騒音・振 動・等	全職場	○
建設リサイクル法	廃棄物のリサイクル	解体現場	○

産業廃棄物収集運搬業及び処分業の更新を行いました。

(盛岡市及び岩手県)

当事業所に適用される環境関連法規の法令違反はありません。

関係機関から訴訟を提起されることも、現在、係争中の訴訟もありません。

違反、訴訟等はこれまで、過去3年間一切ありません。

9. 環境コミュニケーション

環境活動教育の内容

■現場における安全教育訓練の実施
実施日 令和3年2月12日

工事現場では、他産業と比べて多くの労災事故が発生している。ひとたび事故が発生すると、労働者の人命は勿論のこと、油類の流出による水質汚濁、土壌汚染、悪臭、地下水汚染、引火による火災といった地域周辺の環境悪化を引き起こす危険がある。そのような現場内での事故の発生を防止するため、安全教育訓練を実施した。

・現場における安全教育訓練



地域への貢献活動(道路清掃)

実施日 令和3年4月3日

実施場所 黒川・手代森地区 車庫～JA(産直 花山野) 及び 車庫～松本商店 までの歩道を清掃致しました。



10. 代表者による全体の評価と見直し

実施年月日：令和3年7月30日

	評価・見直し	指示
環境経営方針	現在の活動で問題ないと判断する。	将来を見据えた環境活動を考えて下さい。
目標値	新たな中長期目標を設定したが、取り組みが安定期に入ったので目標値は継続した数値とする。建設現場に限定していた「きれいな現場だね」と言われる仕事を全サイトで「きれいな職場だね」と言われる仕事となるように展開していく。	お客様にとってはもちろん、働く人にとっても「きれいな職場」であることは、喜ばれる環境であり働きやすい環境となります。これは従来より弊社で推し進めている事なので、再度初心に帰って実行して下さい。
取組方法	今年度も環境部では産廃の搬入量が多く、工事部でも大規模解体工事があり、非常に忙しい一年となったが、概ね全ての項目で目標を達成することが出来た。次年度から産廃は、震災前の状態に戻り、排出量も減少していくと思われるので、いかにお客様に選ばれる施設となるか勝負の年となる。工事部は、次年度に見込まれる現場が複数あることから、各現場が連携し、人員や車両・重機を効率的な運用をしていく必要がある。	今年度も各部とも忙しい一年となりましたが、全ての項目で概ね目標を達成出来た事は、日頃の取り組みの現れだと思えます。次年度からは産廃の排出量は徐々に減少し、排出事業者が処分業者を選ぶ様になってくるので、また利用したいと思われる様なサービスを実行して下さい。
資源の投入	今年度も、使用頻度や汎用性を考慮した車両の入替・集約化を行った。処理施設についても稼働年数が長くなり、修理が必要になる場面が増えてきたが、今後の処理計画に沿った対応をしていく。但し、通常の産廃の受け入れが滞らない様に、日常整備・点検を確実に実施していく。	車両・重機に関しては、今後も使用頻度を見ながら削減・集約を進めていきたいと思えます。以前からお話ししていたECOセンターの施設拡充については、土地の取得を含めて計画が進んでおりますので、引き続きどの様な施設が望ましいかという視点でも業務に取り組んで下さい。
運用体制	現在の活動で問題ないと判断する。	将来的に現在の活動でいいか考えて下さい。
全体の評価	今年度も工事部で大規模解体工事があり、環境部でも産廃の搬入が好調だったことから非常に忙しい1年となりましたが、概ね全ての環境目標を達成し、大きな事故や怪我も無く1年を終えられることが出来たのは、全社員が取り組むべき事項を確実に実施したことによると思えます。次年度も工事部は引き続き大規模解体工事がありますが、年度の後半では工事の受注状況が不透明な部分もあります。常に改善を目指して、作業手順や工法等の見直しを行って下さい。環境部は震災関連工事が終了し、産廃の排出量は徐々に減少していくことから、排出事業者が処分業者を選ぶ様になってくるものと思われまます。処理料金の面だけでなく、また利用したいと思われる様なサービスを実行出来る様にして下さい。	

※ 提供資料：環境経営レポート
環境活動計画・実施状況及び評価是正

代表取締役 佐藤亮厚

11.事業活動の内容

【事業の概要】

1. 元請・下請として、主に岩手県内の一般住宅及びビルディング、その他の構造物の解体工事を実施しています。
2. 岩手県内の各排出事業者から排出される、産業廃棄物の収集運搬及び処分(中間処理・最終処分)を実施しています。
 自社解体工事から発生した産業廃棄物も一貫した管理体制で、運搬から中間処理・最終処分まで適正に処理しています。

事業活動の内容

■解体工事



■産業廃棄物処理業(中間処理場：I. M. リサイクルセンター)

□施設の処理能力

(1) 破砕施設1：コマツ製移動式クラッシャー BR350JG

廃棄物の種類	処理能力 (t)	
	1日当り (8H)	1時間当り
ガラス、コンクリート、陶磁器くず	1496	187
がれき類	1496	187



(2) 破砕施設2：モバーク社製 ダブルグラインダー MODEL1000

廃棄物の種類	処理能力 (t)	
	1日当り (8H)	1時間当り
木くず	240	30
繊維くず	240	30



(3) 破砕施設3：(株) プラコー製 MS-1500

廃棄物の種類	処理能力 (t)	
	1日当り (8H)	1時間当り
廃プラスチック類	4.5	0.562
紙くず	3.9	0.482
木くず	4.2	0.530
繊維くず	1.5	0.192
ゴムくず	6.0	0.751
金属くず	4.4	0.544
ガラス、コンクリート、陶磁器くず	5.1	0.642
がれき類	1.9	0.238



(4) 破砕分別施設1：渡部工業(株)製 RECOM-400A

廃棄物の種類	処理能力 (t)	
	1日当り (8H)	1時間当り
ガラス、コンクリート、陶磁器くず (廃石膏ボード)	16	2.0



(5) 積替保管施設

廃棄物の種類	保管高さ(m)	保管面積(m ²)	保管容積(m ³)	備考
廃プラスチック類	1.5	10.5	9.0	屋外保管 シート被覆
紙くず	1.5	10.5	9.0	屋外保管 シート被覆
繊維くず	1.5	10.5	9.0	屋外保管 シート被覆
金属くず	1.5	10.5	9.0	屋外保管 シート被覆
廃石膏ボード	1.5	10.5	9.0	屋外保管 シート被覆

□施設の処理能力

(1) 破砕施設 1：オカダアイオン(株)製 ピックバス SRS-450C型

廃棄物の種類	処理能力 (t)	
	1日当り (8H)	1時間当り
紙くず	17.20	2.15
木くず	31.52	3.94
繊維くず	6.88	0.86
ゴムくず	29.76	3.72
金属くず	64.80	8.10
ガラス、コンクリート、陶磁器くず	57.36	7.17
がれき類	84.88	10.61



(2) 破砕施設 2：オカダアイオン(株)製 ピックバス SRS-650C型

廃棄物の種類	処理能力 (t)	
	1日当り (8H)	1時間当り
紙くず	34.96	4.37
木くず	64.16	8.02
繊維くず	14.00	1.75
ゴムくず	60.64	7.58
金属くず	131.84	16.48
ガラス、コンクリート、陶磁器くず	116.64	14.58



(3) 破砕施設 3：富士鋼業(株)製 シュレッドイーグル SE-120N型

廃棄物の種類	処理能力 (t)	
	1日当り (8H)	1時間当り
廃プラスチック類	5.60	0.70
紙くず	4.64	0.58
木くず	5.84	0.73
繊維くず	3.92	0.49
ゴムくず	13.92	1.74
金属くず	12.72	1.59
ガラス、コンクリート、陶磁器くず	16.68	1.71
がれき類	38.56	4.82



(4) 積替保管施設

廃棄物の種類	保管高さ (m)	保管面積 (㎡)		備考
		保管面積 (㎡)	保管面積 (㎡)	
コンクリート廃材	—	33.85	69.63	屋内保管
アスファルト廃材	—	33.85	69.63	屋内保管
廃石膏ボード	—	33.85	69.63	屋内保管
ガラスくず及び陶磁器くず	—	19.74	40.61	屋内保管
廃油	—	12.25	1.80	屋内ドラム缶容器保管 200ℓ9本(防油堤付)
廃小型機器	3.182	13.80	16.00	蓋付コンテナ容器2段積
廃蛍光灯	3.182	13.80	16.00	蓋付コンテナ容器2段積



■車輦GPS追跡管理システム

廃棄物個体の追跡管理や運行状況の管理を行なうシステムです。

排出事業者から収集された廃棄物が処理工場へ搬入・処理されるまでの運搬過程を記録し、これらの情報を関係者に配信することで、運搬処理の流れの透明性を確保します。



■24時間監視システム

産業廃棄物中間処理場のすべての範囲において、監視カメラを設置し、24時間365日を録画します。



リサイクルフロー図

Throughput

処理フロー例

□リサイクルフロー図

品目別処理能力

分別 → 破 碎 → 製品化 → リサイクル後

- コンクリート
- アスファルト
- がれき類



工事現場などで出たアスファルトがら。



コンクリート・アスガラ破砕機「BR350JG」



細かく破砕して再生砕石・再生砂にします。



道路工事などで再利用されています。

- 解体材
- 伐採材
- 伐根材
- 木質パレット
- その他木材
- 畳



工事現場などで出た廃材や、樹木。



移動式木材破砕機「タブグラインダー1000」

ピックアップ「SRS-650C型」



拡大

細かく破砕して木材チップにします。



バイオマスボイラーの燃料として再利用されています。

- 廃プラスチック
- 紙くず
- ゴムくず
- ガラス／陶磁器くず
- 金属くず
- 畳



工事現場などで出る、ガラス陶磁器くずや廃プラスチック、ゴムくずなど。



廃プラスチック類破砕機「MS1500」

シュレドイグル「SE-120N型」



細かく破砕します。



セメント工場などで再利用されています。

- 新築石膏ボード
- 解体石膏ボード



石膏ボード廃材。



廃石膏ボードリサイクル設備「RECOM-400A」



石膏

分別

紙

石膏と紙に分別されます。



土木工事などで再利用されています。石灰を混ぜ込み、道路を固く頑丈にしています。

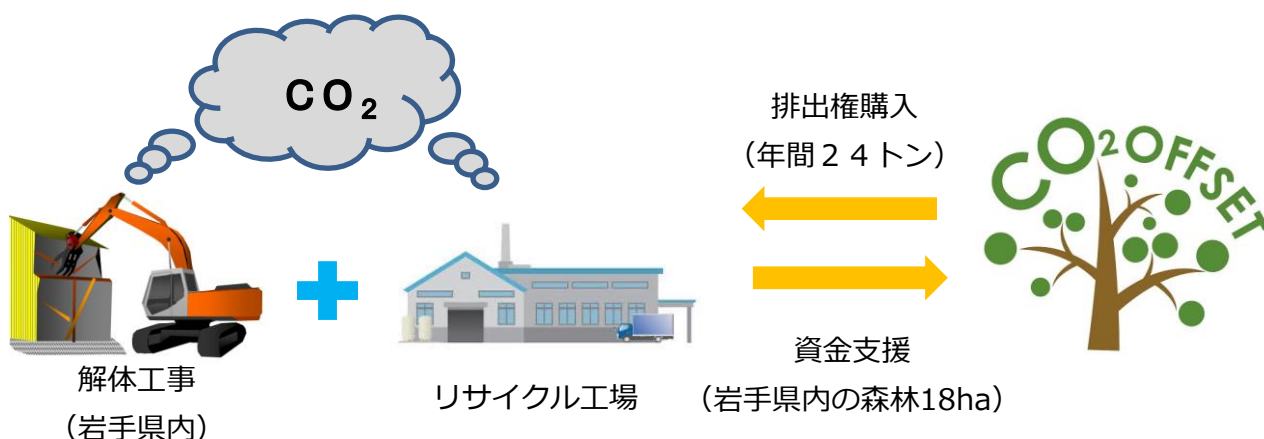
カーボン・オフセットの導入

株式会社佐藤興産と三田農林株式会社は、平成26年11月1日付で「排出権(J-VER)」の売買契約を締結しました。

これにより、平成26年11月から県内での解体工事や産業廃棄物処理の事業活動において排出されたCO₂の一部について、岩手県内の森林吸収による排出権で、**毎月各1トンずつ、1年間で24トン**カーボン・オフセットする取り組みを実行しております。

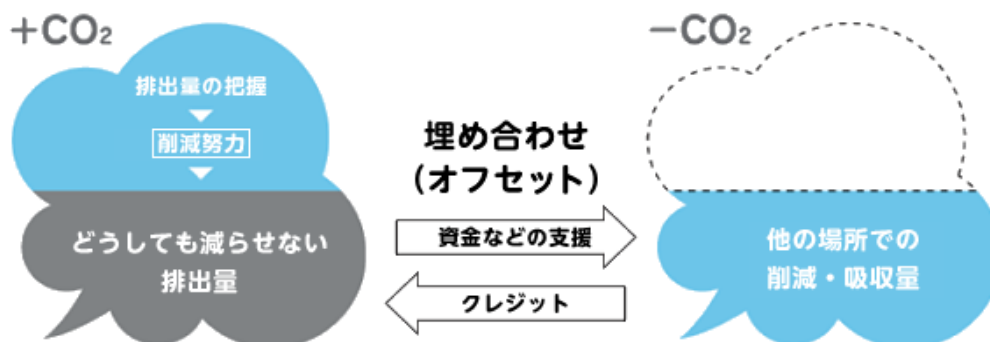
なお、解体工事と廃棄物処理の両方のCO₂をカーボン・オフセットする事例は東北初となります。

今年度も同条件で契約を更新し、これらの取り組みを継続して行っています。



■ カーボン・オフセットとは？

カーボン・オフセットとは、自分の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量(排出権)でオフセット(埋め合わせ)することを言います。



■ オフセット・クレジット(J-VER)制度とは？

J-VER制度は、平成20年11月に環境省が創設したもので、間伐などの森林管理を行う事でCO₂吸収量を増加させ、増加した吸収量をクレジット(排出権)として発行・認証する制度です。

平成26年12月に、カーボン・オフセットの記事をプレスリリースいたしました。
「日本経済新聞」、「日刊岩手建設工業新聞」、「盛岡タイムス」等に掲載されました。

報道関係者各位

平成26年12月発信

東北初 解体工事と廃棄物処理のCO2排出 森林吸収で削減

株式会社佐藤興産は三田農林株式会社取得の排出権(J-VER)を24トンを購入。

株式会社佐藤興産と（本社：岩手県盛岡市、社長：佐藤 亮厚）三田農林株式会社（本社：岩手県盛岡市、社長：三田林太郎）は「排出権(J-VER)」の売買契約を下記のとおり締結しましたので、お知らせいたします。

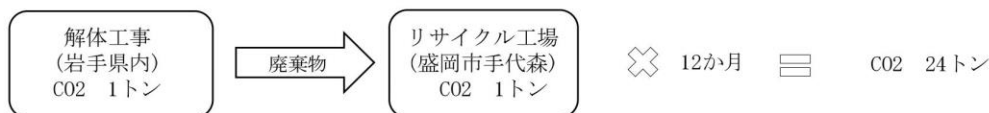
佐藤興産では、県内での解体工事や産業廃棄物処理の事業活動において排出されたCO2の一部を、森林吸収による排出権で毎月カーボン・オフセット(相殺)し、環境問題等の解決に向けた社会的責任を果たす取り組みを継続的に実践してまいります。なお、解体工事と廃棄物処理の両方のCO2をカーボン・オフセットする事例は東北初となります。

今回の使用する排出権は三田農林が所有管理する森林1,900haのうち、岩手県内の18haの森林吸収により発行されたJ-VERであり、売買代金はその後の間伐や造林などさらなる森林整備の推進と温暖化防止に役立てます。

1. 契約内容

契約日：平成26年11月1日 排出権購入量：24トン 期間：平成26年11月1日～平成27年10月31日

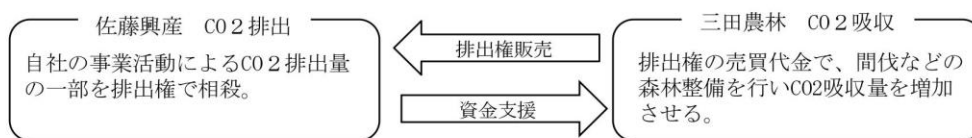
内容：佐藤興産が行う解体工事とリサイクル工場から排出されるCO2を毎月1トンずつ、1年間で24トン在三田農林の排出権でカーボン・オフセットする。



2. J-VER制度の概略

J-VER制度は、平成20年11月に環境省が創設したもので、間伐などの森林管理を行う事でCO2吸収量を増加させ、増加した吸収量を排出権として発行・認証する制度です。

カーボン・オフセットとは、活動によって排出するCO2のうち、自助努力では削減出来ない量の全部または一部を、他の場所での吸収・削減量(排出権)で相殺しようというものです。



三田農林は、平成20～24年度の5年間で間伐した社有林が吸収したCO2 795トンを出権として取得しました。
排出権で他の企業活動から排出されるCO2を相殺するとともに、これからも森林管理を適切に行い、温暖化防止に貢献します。

3. 本件に関するお問い合わせ先

[J-VER発行・契約について]

三田農林 株式会社

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通1-1-23 TEL019-624-2120 FAX019-624-2181

山林部主任 藤井貴史 nor-fujii@mita-gnet.co.jp <http://mitanorin.co.jp/>

[佐藤興産企業情報について]

株式会社 佐藤興産

〒020-0401 岩手県盛岡市手代森19-95-2 TEL019-696-2362 FAX019-696-2384

環境部 谷藤真一 tanifuji@sato-im.com <http://www.sato-im.com/>

主要設備

重機

■ 0.15m ³	解体併用機	2台
■ 0.25m ³	解体併用機	2台
■ 0.25m ³ (2ピース)	解体併用機	1台
■ 0.45m ³	解体併用機	2台
■ 0.45m ³ (2ピース)	解体併用機	1台
■ 0.7m ³	解体併用機	8台
■ 1.2m ³	掘削専門機	1台
■ 19m級	解体併用機	1台
■ 23m級	解体併用機	1台
■ 27m級	解体併用機	1台
■ 0.4m ³	除雪併用車	1台
■ 0.6m ³	除雪併用車	1台
■ 1.2m ³	除雪併用車	2台
■ 2.0m ³	除雪併用車	2台
■ 2.5tフォークリフト		3台



車輜

■ 2t深ダンプ	1	台
■ 2tアームロール	2	台
■ 3t深ダンプ	1	台
■ 3tユニック	2	台
■ 4tダンプトラック	2	台
■ 4t深ダンプ	1	台
■ 4tアームロール	6	台
■ 5tクレーン付アームロール	1	台
■ 4tユニック	1	台
■ 5tユニック	1	台
■ 保冷車	1	台
■ 10tダンプ	1	台
■ 大型アームロール	2	台
■ 大型深ダンプ	1	台



産廃BOX

■ 2m ³ BOX	500	個
■ 8m ³ コンテナ	50	個
■ 10m ³ コンテナ	10	個



産業廃棄物処理実績

令和2年度（令和2年4月 ～ 令和3年3月）

廃棄物の種類		単位	収集運搬量
(i) 収集運搬	燃え殻	t	3.040
	ばいじん	t	0.410
	廃プラスチック類	t	988.855
	紙くず	t	86.760
	木くず	t	1,457.861
	繊維くず	t	32.080
	金属くず	t	99.510
	ガラス陶磁器くず	t	441.212
	廃石膏ボード	t	637.320
	がれき類	t	1,433.532
	廃石綿等	t	4.310
合計		t	5,184.89

廃棄物の種類		処理方法等	単位	処理量	
(ii) 中間処理	廃プラスチック類	破砕	t	1,661.34	
	紙くず	破砕	t	147.03	
	木くず	破砕	t	7,566.67	
	繊維くず	破砕	t	107.30	
	金属くず	破砕	t	119.78	
	ガラス陶磁器くず	破砕	t	1,313.16	
	廃石膏ボード	破砕、破砕分別	t	1,624.04	
	がれき類	破砕	t	31,483.65	
	再資源化等	廃プラスチック類	破砕	t	1,450.54
		紙くず	破砕	t	147.03
		木くず	破砕	t	7,566.67
		繊維くず	破砕	t	107.30
		金属くず	破砕	t	119.78
		ガラス陶磁器くず	破砕	t	1,192.34
		廃石膏ボード	破砕、破砕分別	t	1,624.04
		がれき類	破砕	t	31,483.65
		小計			t
	合計			t	44,022.97

廃棄物の種類		処理方法等	単位	処分量
(iii) 最終処分	廃プラスチック類	安定型埋立	t	0.00
	ガラス陶磁器くず	安定型埋立	t	0.00
	がれき類	安定型埋立	t	0.00
合計			t	

廃棄物の種類		処理方法等	単位	処分量等	
(iv) 産業廃棄物の中間処理後の	最終処分	廃プラスチック類	安定型埋立	t	210.80
		ガラス陶磁器くず	安定型埋立	t	120.82
		小計			t
	(再資源化等)	廃プラスチック類	セメント原燃料、熱回収（委託）	t	1,450.54
		紙くず	セメント原燃料（委託）	t	147.03
		木くず	ボイラ燃料、農業用チップ（売却）	t	7,566.67
		繊維くず	セメント燃料・原料（委託）	t	107.30
		金属くず	再生鋼材（売却）	t	119.78
		ガラス陶磁器くず	路盤材（売却）、セメント原燃料（委託）	t	1,192.34
		廃石膏ボード	石膏原料（売却）、セメント原燃料（委託）	t	1,624.04
がれき類	路盤材（売却）	t	31,483.65		
小計			t	43,691.35	
合計			t	44,022.97	

リサイクル提案フローチャート

recycle flowchart

未来へ向けた、 自然に優しい環境づくりを思考する

□リサイクル提案フローチャート

排出事業者

当社

社内コンプライアンス
委員会監理

【構成メンバー】 社員……………4名
外部有職者……………2名
役員……………2名

【役割】 1. 産廃委託契約書の確認
2. マニフェスト運用の確認
3. 施設運営の確認
4. 法律遵守の確認
5. 管理システムの運営



ECOセンター工場全景 計量機



ECOセンター管理室 場内管理カメラ



車両GPSシステム 事務所内モニター



契約成立

R2年度実績
全受託量
44,022.97 t

R2年度実績
再資源化量
43,691.35 t

排出現場
(リサイクル分別)

- アスファルト ●コンクリート
- 木材 ●伐根材 ●伐採材
- 解体材 ●廃石膏ボード
- 鉄くず ●紙 ●廃プラ
- ガラスくず ●陶磁器くず
- ゴムくず ●畳、その他

recycle
flow chart

R2年度実績
最終処分量
0.00 t

リサイクルが
できないもの
車両GPS追跡管理

佐藤興産
産業廃棄物
最終処分場

岩手クリーン
センターなど
管理型処分場

R2年度実績
最終処分量
331.62 t

リサイクルが
できるもの
車両GPS追跡管理

再資源化
●再生砕石 ●木材チップ
●再生アスファルト

再利用
●バイオマス燃料
●土壌改良材 ●RPF

R2年度実績
中間処理量
44,022.97 t

I.M.リサイクル
センター

ECOセンター

- アスファルト
- 木材
- 廃プラスチック
- ガラス陶磁器
- コンクリート
- 紙 ●鉄 ●畳
- 石膏ボード

マニフェスト

積荷目録を意味する英語で、産業廃棄物の処理の流れを把握するための管理票をマニフェストと称します。産業廃棄物の名称、数量、委託先等を記載します。

電子マニフェスト

伝票の回収や照合が不要で、パソコンを使ってマニフェスト情報の処理状況等の確認が行えます。収集運搬業者、処分業者は伝票の送付が不要となり、パソコンや携帯電話を使って報告することができます。また、排出事業者、収集運搬業者、処分業者がマニフェスト情報に登録しなければならない情報は、法で規定されています。それら全ての情報を入力しないと情報処理センターに登録できない仕組みとなっていますので、法を遵守した確実な運用を行うことができます。

車両GPS追跡管理

廃棄物個体の追跡管理や運行状況の管理を行うシステムです。排出事業者から収集された廃棄物が処理工場へ搬入・処理されるまでの運搬過程を記録し、これらの情報を関係者に配信することで、運搬処理の流れの透明性を確保します。

工場の配置と地図

access MAP

周辺地図



ECOセンター

岩手県盛岡市乙部5地割320番1 TEL.019-656-1188 FAX.019-656-1189 フリーダイヤル.0120-310-202

I.M.リサイクルセンター

岩手県盛岡市手代森18地割2-2 TEL.019-696-5866 FAX.019-696-5866

株式会社 佐藤興産

岩手県盛岡市手代森19-95-2 TEL.019-696-2362 FAX.019-696-2384

URL : <http://www.sato-im.com>

E-mail : info@sato-im.com

